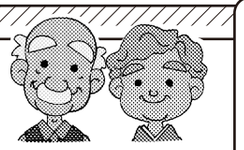
紀見トンネルの崩落事故（公明ネットワーク力の発揮）

今年1月3日に、河内長野市と橋本市を結ぶ国道371号線の紀見トンネルの側壁のコンクリートがはがれ落ちました。幸いなことに、その時、歩行者や車が通っていなかったので、大きな事故には至らず、ほっと胸をなで下ろしましたが、この事故は新聞にも掲載され、テレビでも大きく報じられました。

【経　過】

1月3日　トンネル内の側壁が崩落
4日　地元公明市議が浮島智子国会議員に報告と対応を依頼
↓
その日のうちに、浮島議員（公明党）は国交省に連絡
↓
国交省より、正月なので業者が休業中、すぐには対応できないと返事あり
そこで、緊急の対応を浮島議員は太田明宏国交大臣（公明党）に直談判
その日のうちに片側通行規制による総点検・工事開始
12日　全面通行が可能になる
13日　浮島衆議院議員・河内長野市公明議員4人・橋本市公明議員2人・本市副市長・和歌山県担当部長で現場を視察し、併せて371号バイパスの早期完成を要望。（素早い対応ができ、本当に良かったです。）

「市民後見人」



「市民後見人」とは、判断能力が不十分になった高齢者をサポートする「成年後見人」を弁護士などの専門職だけに任せるのではなく、資格を持った市民が行うものです。

私たち公明党は、高齢社会に向け「広く市民に後見人の資格を取ってもらう」ことを要望していましたが、今回の予算でその養成講座を開くことが決まりました。本当に良かったです。

（問い合わせ：☎　53−1111　生活福祉課）

期日前投票が便利に！

高齢者から「市役所で期日前の宣誓書を書くとき、自分の事なのにドキドキして書きにくい。何とかならないか。」というお声を頂いていました。

投票率をアップするためにも、「もっと利用しやすく。」と要望していたところ、投票整理券の裏に記入欄が設けられました。自宅で記入していけばいいので大変便利になりました。

皆さまのお声がカタチとなりました！

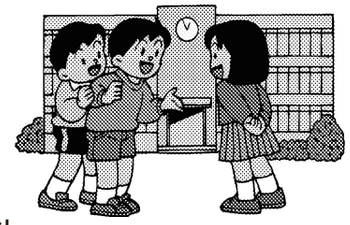
ピロリ菌 保険適用　（胃がん予防が大きく前進）

胃がんの原因、ピロリ菌の感染による慢性胃炎について、除菌するための複数の薬剤が、今年2月21日から保険適用となりました。胃がん対策について公明党は国会で何度も取り上げ、ピロリ菌の感染が胃がん発生の原因の一つであることを政府に認めさせ、北海道や九州で大規模な署名をし、取り組んできました。

避難所としての学校

東日本大震災では学校が避難所となり沢山の被災者を、長い間、支援することになりました。このことから公明党は府内の全自治体一斉に「学校防災拠点総点検」として、避難所としての学校の現状を調べることにしました。

河内長野市議会公明党の4議員も手分けして住民と一緒にすべての小中学校を点検し、大阪府へ報告並びに要望をしました。
結果は下記の通りでした。



点検結果：

①	学校施設内の衛星通話電話の有無	全学校　なし
②	災害時優先電話指定の有無	全学校　あり
③	自家発電設備の有無	全学校　なし
④	太陽光パネル設置の有無	小学校2校　あり
⑤	蓄電池の有無	全学校　なし
⑥	水確保の有無	浄水装置全学校なし
⑦	学校施設内に防災倉庫の有無	全学校　なし
⑧	学校施設内に備蓄倉庫の有無	全小学校　あり・中学校　なし
⑨	洋式トイレの有無	全校舎にあり、体育館になし
⑩	シャワーの有無	全学校　あり
⑪	マンホールトイレの有無	全学校　なし
⑫	学校施設内における災害時要援護者の避難に備えた特別な場所	全学校　なし

公明党が与党になり、防災・減災の取り組みが進んでいます。公明党の主張が反映された補正予算の中に防災・安全交付金5,498億円があります。この予算を使い、本市では防災力の強化として次のことを予算化しました。

① 防災無線をデジタル化・機能拡充し、各学校に配置
② 防火水槽の耐震補強
③ 小・中学校に災害用備蓄倉庫の設置と避難所用照明・発電機の配備
④ 中学校に心肺蘇生用トレーニング物品を配備

学校の耐震化も前倒しで実施しています。平成26年度にはすべての小中学校の耐震化が終わる予定です。